

学術フォーラムの概要について（事後報告）

- 1 名称：学術フォーラム「自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン」
- 2 日本学術会議以外の共同主催団体等：
 - ・企画：日本学術会議課題別委員会「自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会」
 - ・後援：内閣府科学技術・イノベーション推進事務局、文部科学省
 - ・協賛：ITS Japan、応用哲学会、科学基礎論学会、計測自動制御学会、サービス学会、システム制御情報学会、自動車技術会、情報処理学会、人工知能学会、電気学会、電子情報通信学会、日本機械学会、日本グループ・ダイナミクス学会、日本社会心理学会、日本心理学会、船舶海洋工学会、日本ロボット学会
- 3 開催日時：令和5年9月16日（土）13:00～16:50
- 4 開催場所：日本学術会議講堂（オンライン併用）
- 5 開催趣旨：

自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン検討委員会では、見解「自動運転における倫理・法律・社会的課題」とそれを踏まえた提言「自動運転の社会実装と次世代モビリティによる社会デザイン」を9月15日に発出した。

その骨子は、自動運転の社会実装にかかわる ELSI、自動運転を含む次世代モビリティによる人口縮小社会のグランドデザインの在り方及び技術的發展を見据えた持続可能なモビリティを実現するための方策となっている。

本フォーラムでは、これらの見解と提言を基に、人文・社会科学、生命科学、理学・工学にわたる幅広い分野から専門家および実務者を招き、総合的な観点から、将来のモビリティ社会のあるべき姿と、そのためになすべきことについて議論する。
- 6 参加人数：

講演者等：16名

その他の参加者：122名（オンライン：107名、現地：15名）
- 7 特記事項：

本フォーラムでは、自動運転の社会実装に向けてのキーパーソンからの講演がなされ、前日に発出された提言をアピールするいい機会となった。今後は、このフォーラムの内容の記録を残し、また提言を各方面に伝えていき、提言に盛り込まれた内容が実現していくよう努力していく。